

花園大学

教職履修カルテ

学生証番号								
フリガナ								
氏名								
所属	学部		学科			コース		
在籍期間	年 4月 入学			年 3月 卒業（予定）				

教職履修カルテについて

「教職実践演習」と「教職履修カルテ」

「教職実践演習」は、教職課程履修の総括科目として4年次後期に必修科目として配置される。当該授業は教員養成段階で修得すべき教員として必要な知識技能・資質能力が、どのように獲得できたのかを確認し、補完するためのものである。

「教職履修カルテ」は、教職志望者自身によってなされる在学中の教職課程履修状況等の記録であり、「教職実践演習」において知識技能・資質能力を把握するための教材として用いられる。

「教職実践演習」の履修にあたっては、その履修前までに「教職履修カルテ」が完全に記入済みであることが前提となることから、各自で「教職履修カルテ」の該当ページを確認し、1年次から着実に必要な事項を記入するとともに、自己点検・自己評価をすること。また、必要に応じ本カルテを用いた教員による診断を行う。その結果を次の学びに役立てる工夫をすること。

「教職実践演習」の概要 ※2021年度：教職実践演習シラバスより転記

教員としての資質・能力の中核は、優れた授業の実践力を通じた生徒指導力である。本演習では、教育実習の実地体験をふまえつつ、その圧倒的な経験に振り回されないための分析力を身に付けると共に、生徒の実態を踏まえつつ、同時にそれを変革するより高次の実践力を身に付けることをめざして、教育実習簿の客観的な分析や模擬授業を実施し、批評会も行う。

「教職履修カルテ」の活用方法

主な活用目的は4年次後期に履修する「教職実践演習」受講時の教材であるが、1年次より各年次必要項目を忘れることなく記録し、必要に応じ教職課程担当教員により診断を受ける。

教職課程の履修計画にあたっては、各自が学修ガイドブック教職課程のページを熟読し、自己責任において履修すること。また、教職課程履修に必要なオリエンテーションの案内はポータルサイトにて行うので、注意しておくこと。

「教職履修カルテ」の保管

教職履修カルテの様式は、次の場所に掲載している。

ポータルサイト>[指定リンク 教職履修カルテ \(TOP ページ中ほど\)](#)

ここに各ページをWord形式にて掲載しているので、入力、印刷の上、2穴ファイルに綴り保管すること。手書きも可。

Wordに入力の結果、様式は1ページであるがページ内に収まらないことが考えられる。この場合、複数ページにわたっても差し支えない。また、1冊のファイルに収まらない場合は、分冊しても差し支えない。

記録に残すべき事項はもれなく綴ること。

目次、記入時期

本書の構成及び各ページの記入時期を以下に示す。

ページ	項目	記入時期
3	教職ガイダンス等日程メモ	記入の時期は適宜とする
4	プロフィール	カルテ使用開始時一番初めに作成する
	取得希望免許状	取得希望免許状欄は2～4年次4月に確認をする
	免許状取得の動機	
5	自己評価シート（総括）	各年次年度末に記入する
6-9	自己評価シート（教職を目指す上で課題と考えている事項）	各年次年度末に記入する
10	教職課程における自己評価（1年次）	1年次年度末に当該年度の成績が確定してから記入する
11	教職課程における自己評価（2年次）	2年次年度末に当該年度の成績が確定してから記入する
12	教職課程における自己評価（3年次）	3年次年度末に当該年度の成績が確定してから記入する
13	教職課程における自己評価（4年次）	4年次年度末に当該年度の成績が確定してから記入する
14	介護等体験における自己評価（中学校教諭1種免許状取得の場合のみ作成）	特別支援学校・社会福祉施設それぞれの介護等体験終了後に記入する
15	教育実習における自己評価 （実習校分作成）	教育実習の終了後に記入する
16	ボランティア等における自己評価 （該当のある場合のみ）	ボランティア等実施毎に記入する
17	課外活動における自己評価（部会・サークル等、該当のある場合のみ作成）	記入の時期は適宜とする
18	教職に関する科目の記録	1～3年次：前期、後期毎に成績が確定してから記入する 4年次：当該年度の履修登録後に履修中の科目について記入する 成績は確定次第記入する
19	（19ページは科目数分作成）	
20	教科に関する科目の記録	
21		
22	教育職員免許法施行規則第66条の6	
23	に定める科目の記録	

教職ガイダンス等日程メモ

1 年 次	開催日	開始時間	教室	概要
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
2 年 次	開催日	開始時間	教室	概要
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
3 年 次	開催日	開始時間	教室	概要
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
4 年 次	開催日	開始時間	教室	概要
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		
	/ ()	: ~		

※ポータル等で確認したガイダンス日程を個人で管理するために使用して下さい。

教職履修カルテ ～共通事項～

プロフィール

学生証番号			
フリガナ			
氏名			
所属	学部	学科	コース

取得希望免許状（校種、教科をそれぞれ記入すること）

校種	教科(中学、高校のみ)

免許状取得の動機

--

自己評価シート（総括）

(1) 教員に求められる資質・能力についての自己評価

評価項目		自己点検・自己評価			
大項目	中項目	1年次 終了時	2年次 終了時	3年次 終了時	4年次 終了時
I 教職論	1 教職の意義と役割を理解し、自己が目ざす教師像を明確に持っている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	2 教職に対する使命感、責任感、意欲がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	3 教員としての自覚を持ち、自己抑制・倫理観を備えている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4 教職に必要な教養・法的知識等がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	5 教育に必要な事務処理能力や機器の活用ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
II 学習指導	6 目標とする学校種における教科等の専門性、知識力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	7 児童等の発達段階、実態に即した教材研究ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	8 教材研究に基づく指導計画や指導案づくりが適切にできる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	9 基本的な指導技術を駆使し、柔軟な指導ができる。	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	10 授業評価をもとに授業改善する力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
III 生徒指導・ 学級経営	11 児童等と信頼関係をもって接することができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	12 学級経営の意義を理解し、経営案を生かした指導ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	13 特別活動の意義を理解した上で適切な指導ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	14 児童等の発達段階や特別な教育的支援に関する基本的な知識がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	15 児童等と意欲的に関わり、理解を深め、個に応じた適切な指導ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	16 生徒指導の意義を理解し、組織的・継続的に指導ができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	17 生徒等の進路ニーズを理解し、実現に向けた進路指導にとり組むことができる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
IV 組織・ 協働	18 組織の一員としての自覚と責任感がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	19 校務分掌等の意義・内容を理解し計画を立案できる	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	20 コミュニケーション力、対人関係能力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	21 同僚・保護者と信頼関係を築き、協働する力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	22 児童等の健康と安全を確保するため必要な状況を理解し、適切に対応する力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	23 自己の考えを論理的に説明・説得する能力がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	24 リーダーシップがある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	25 学校・家庭・地域社会と連携し、貢献しようとする意欲がある	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

【評価基準について】

- 4：十分到達している（自分で問題解決できるレベル。自分で工夫したり意見を聞いたりしながら問題解決し、実践できる。）
- 3：到達している（ある程度一人でできる。自分で課題をもって解決のために工夫したり、意見を聞いたりすることができる。）
- 2：ある程度到達している（指導助言により改善可能な程度。不安を持っているが、前向きに実践することができる。）
- 1：到達が不十分（指導助言をされても容易にできない。問題意識を持ってはいるものの解決のための方策をもてない。実行出来ない。）

(2) 教職を目指す上で課題と考えている事項 (1年次)

		ア 教師としての望ましい自己像	イ 実現に向けた自己課題	ウ 具体的な手立て・取り組み
I 教職論	使命感や責任感、教育的愛情に関する内容			
II 学習指導	教科内容等の指導に関する内容			
III 生徒指導・学級経営	児童生徒理解や学級経営等に関する内容			
IV 組織・協働	社会性や人間関係能力に関する内容			

(2) 教職を目指す上で課題と考えている事項 (2年次)

		ア 教師としての望ましい自己像	イ 実現に向けた自己課題	ウ 具体的な手立て・取り組み
I 教職論	使命感や責任感、教育的愛情に関する内容			
II 学習指導	教科内容等の指導に関する内容			
III 生徒指導・学級経営	児童生徒理解や学級経営等に関する内容			
IV 組織・協働	社会性や人間関係能力に関する内容			

(2) 教職を目指す上で課題と考えている事項 (3年次)

		ア 教師としての望ましい自己像	イ 実現に向けた自己課題	ウ 具体的な手立て・取り組み
I 教職論	使命感や責任感、教育的愛情に関する内容			
II 学習指導	教科内容等の指導に関する内容			
III 生徒指導・学級経営	児童生徒理解や学級経営等に関する内容			
IV 組織・協働	社会性や人間関係能力に関する内容			

(2) 教職を目指す上で課題と考えている事項 (4年次)

		ア 教師としての望ましい自己像	イ 実現に向けた自己課題	ウ 具体的な手立て・取り組み
I 教職論	使命感や責任感、教育的愛情に関する内容			
II 学習指導	教科内容等の指導に関する内容			
III 生徒指導・学級経営	児童生徒理解や学級経営等に関する内容			
IV 組織・協働	社会性や人間関係能力に関する内容			

教職履修カルテ ～教職に関する科目～

＜記入の方法と事例＞

【記入について】

科 目 名	教職概論（中等）	担 当 教 員	中 善 則	
修 得 年 次	1	履 修 条 件	必修	
講義内容： ○○○○・・・・・・ ㊟				
自己評価・課題： 【自己評価】 △△△△・・・・・・ ㊟				
【課 題】 □□□□・・・・・・				
			達 成 度	成 績 評 価
			3	A

- ① 科 目 名：履修している科目名を記入すること。
- ② 担 当 教 員：当該科目の講義を担当した教員名を記入すること。
- ③ 修 得 年 次：当該科目の講義を修得した年次を記入すること。
- ④ 履 修 条 件：必修、選択、実習実施前年度前提科目から該当するものを記入すること。
- ⑤ 講 義 内 容：講義への取組み方やこの授業を通しての自身への課題を明確に記入すること。㊟
- ⑥ 自 己 評 価・課 題：授業全体を振り返っての自己評価を記入すること。また、この授業で得たものや、今後の課題を明確に記入すること。㊟
- ⑦ 達 成 度：「講義内容」として定めた目標に対しての達成度を以下の評価基準で記入すること。

【4】目標以上の成果があった	【2】一部達成できた
【3】達成できた	【1】課題が多く残った
- ⑧ 成 績 評 価：担当教員による成績評価を記入すること。

㊟講義内容、自己評価・課題欄については、当該科目のレポート等提出課題の写しを綴じこむことにより記入を省略することができる。綴じこむ際は、4回生次に振り返った際、当科目の学びが分かるよう工夫すること。

記入にあたっては学修ガイドブック教職課程のページを参照の上、科目の記入漏れが無いよう注意すること。対象科目は次のとおり。1科目につき1ページ使用すること。

- 中学、高等学校教諭：教職に関する開講科目表掲載科目
- 特別支援学校教諭、幼稚園教諭：開講科目表掲載科目
- 養護教諭：開講科目表のうち、第1欄～第6欄に掲載科目

教職履修カルテ

～教職に関する科目～

科 目 名		担 当 教 員	
修 得 年 次		履 修 条 件	
講義内容：			
自己評価・課題：			
【自己評価】			
【課 題】			
		達 成 度	成 績 評 価

達成度

【4】目標以上の成果があった

【2】一部達成できた

【3】達成できた

【1】課題が多く残った

教職履修カルテ ～教科に関する科目～

【記入について】

対象教科	科目名	成績評価	修得年次	担当教員	自己評価
中高・国語	日本文学概論 I	A	1	〇〇 〇〇	4・3・2・1
高・書道	書道実習 (一) I A	B	2	△△ △△	4 3・2・1

- ① 対象教科：当該科目を教科に関する科目とする免許教科を記入すること。
- ② 科目名：修得した教科に関する科目の名称を記入すること。
- ③ 成績評価：担当教員による成績評価を記入すること。
- ④ 修得年次：当該科目の講義を修得した年次を記入すること。
- ⑤ 担当教員：当該科目の講義を担当した教員名を記入すること。
- ⑥ 自己評価：当該科目を履修しての自己評価を、以下の評価基準で記入すること。

【4】十分に理解できた 【3】理解できた
 【2】一部課題が残った 【1】課題が多く残った

記入にあたっては学修ガイドブック教職課程のページを参照の上、科目の記入漏れが無いよう注意すること。対象科目は次のとおり。1 ページに収まらない場合は、2 ページ目以降を追加すること。

中学、高等学校教諭：教科に関する専門的事項開講科目表掲載科目

特別支援学校教諭、幼稚園教諭：作成不要

養護教諭：開講科目表のうち、第1欄～第6欄に掲載以外の科目

教職履修カルテ ～教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目～

【記入について】

対象教科	科目名	成績評価	修得年次	担当教員	自己評価
中高・国語 高・書道	日本国憲法	A	1	〇〇 〇〇	4 3・2・1
中高・国語 高・書道	丸ごと健康学	B	2	△△ △△	4 3 2・1

- ① 対象教科：当該科目を教科に関する科目とする免許教科を記入すること。
- ② 科目名：修得した教科に関する科目の名称を記入すること。
- ③ 成績評価：担当教員による成績評価を記入すること。
- ④ 修得年次：当該科目の講義を修得した年次を記入すること。
- ⑤ 担当教員：当該科目の講義を担当した教員名を記入すること。
- ⑥ 自己評価：当該科目を履修しての自己評価を、以下の評価基準で記入すること。

【4】十分に理解できた **【3】**理解できた
【2】一部課題が残った **【1】**課題が多く残った

記入にあたっては学修ガイドブック教職課程のページを参照の上、科目の記入漏れが無いよう注意すること。対象科目は次のとおり。

中学、高等学校教諭：教職に関する開講科目表下部、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

幼稚園教諭、養護教諭：開講科目表下部、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

教職履修カルテ ～教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目～

対象教科	科目名	成績評価	修得年次	担当教員	自己評価
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1
					4・3・2・1

自己評価

【4】十分に理解できた 【3】理解できた 【2】一部課題が残った 【1】課題が多く残った